

*To the memory of Dr. Yutaka Mizushima
Fumimaro Takaku**

故 水島 裕名誉理事長を偲んで

高 久 史 磨*

水島先生と私との交流は、昭和55年に塩川優一先生が日本炎症学会を創設された時頃から始まったと記憶している。日本炎症学会の創設に当たっては水島裕先生、鶴藤丞両先生の合意と協力が必須であったと塩川先生が随想集の中で述べられておられるが、日本炎症学会の前身であった炎症研究会の時代、更にこの研究会が学会となった後も、大正製薬株式会社から全面的な援助があった事、又水島先生が新しい薬剤の開発を介して大正製薬と密接な関係を持っておられた事を考えると、私は日本炎症学会の創設に際して水島先生が大きな役割を演じられた事は間違いないと思っている。私自身は当時血液学が専門で、炎症学とは余り関係がなかったが、日本炎症学会創設時から評議員にさせていただき、昭和59年には第5回炎症学会の会長を勤めさせていただいた。又昭和60年から平成9年まで12年間にわたって日本炎症学会誌の編集委員長であったが、その間水島先生は編集委員としてお付き合いいただいた。水島裕先生は平成5年から平成12年まで、日本炎症学会の代表を務められ、この間『日本炎症学会』を『日本炎症・再生医学会』とする事を提案された。この名称の変更により学会の演題の範囲が拡がり、その内容も最新の医学を取り入れたものとなった。この場をお借りして改めて水島先生の日本炎症・再生医学会に対するご貢献を讃えたい。

水島先生と私との交流は、日本炎症学会を介してだけでなく、色々な場であった。少しづつ思い出しながら本文を書いているが、私が水島先生に対して持った最初の印象は、随分はつきりと、しかも辛口の発言をされる方だという事であった。その後水島先生とずーとお付き合いをしている中に段々水島先生は私を始め周りの人に対するサービスのつもりで辛口の発言をされているのではないかと思う様になった。この私の勘は今でも正しかったと信じている。

水島先生のご功績を挙げると限りがないが、その中でも大きかったのは聖マリアンヌ医科大学の中に難病治療研究センターを創設され、そのセンターに優秀な人材を集められ、研究の面でも大きな成果をあげられた事である。この研究センターの創設の際に水島先生からその設立に関して相談を受けた記憶がある。水島先生とは医学以外の面でもお付き合いいただいた。医学以外というのは主としてテニスである。確か品川にある室内のテニスコートでお付き合いいただいたが、水島先生は運動万能で、学生時代からテニスをしておられた。その水島先生に、高齢初心者である私が相手になれる筈はなく、「高久先生のサービスのフォームが悪いからかえってリターンしにくい」等と言う悪口を言われながらプレーをした事が懐かしく思い出される。

*自治医科大学学長

水島先生には驚かされた事がいくつもある。先ずその第一は参議院議員になられた事である。当然の事ではあるが、この事に関しては上述の難病治療研究センター設立の時と違い、全く相談を受けなかった。只「議員として同じ党の立候補者の応援演説をするのは苦手だ」とおっしゃった事を記憶している。応援演説だと当然その立候補者を褒めなければならない。その点で水島先生は苦手だったのではないかと勝手に推測している。

水島先生に関してもう1つ驚かされた事は、聖マリアンヌ医科大学の教授後退任のパーティの時だったと思うが、水島先生が監督をされ、且つ短時間ではあるが、出演された映画を見せられた事である。この他「オーケストラの指揮をしてテニスエルボーになった」と言われた時にも改めて水島先生の多彩な才能に驚かされた。

多くの才能に恵まれ、多彩な人生を送られ、急逝された水島先生のご冥福をお祈りし、残されたご家族の方々の益々のご繁栄を願って追悼文の締めくくりとしたい。